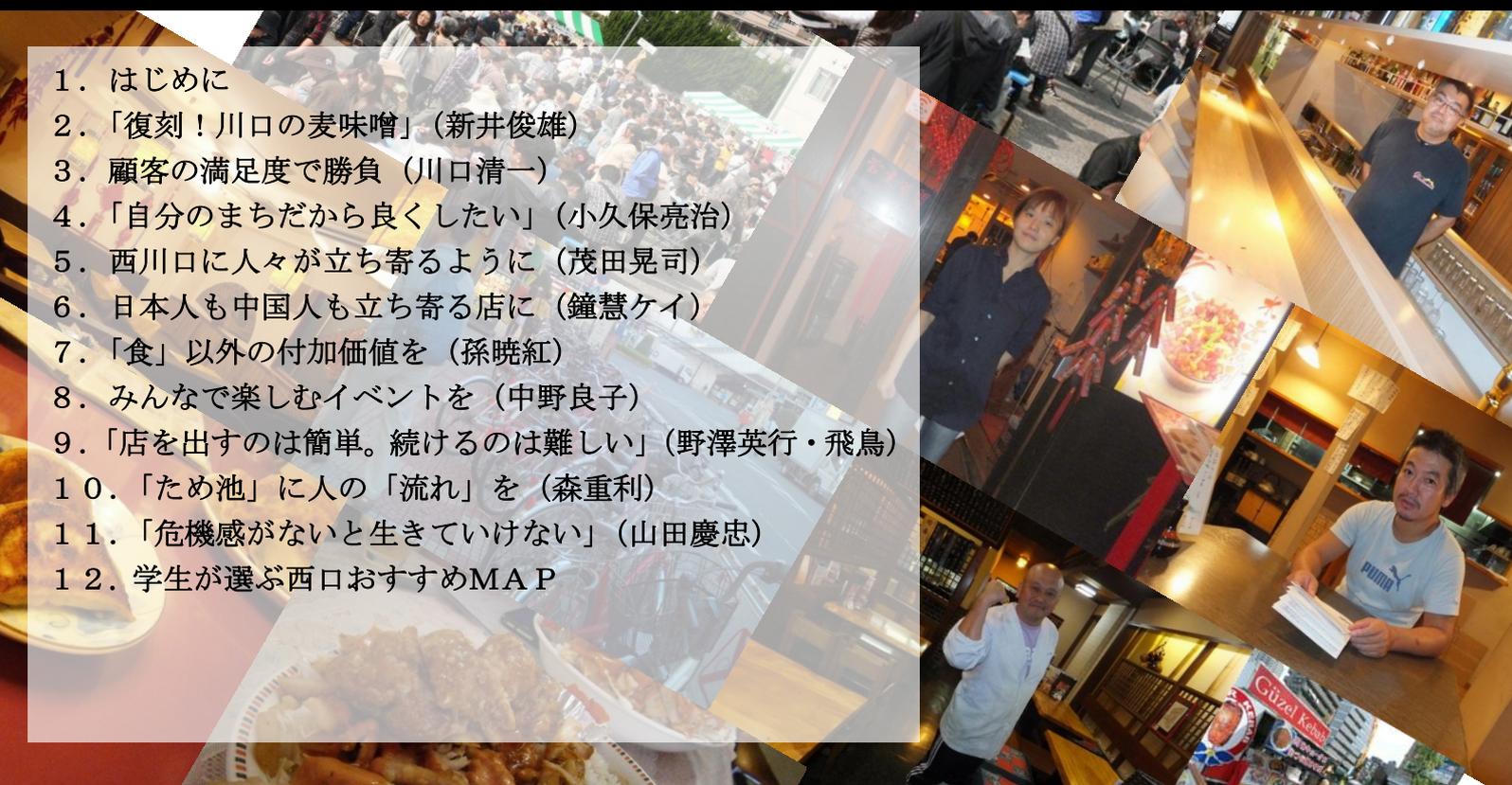




# 2012 B級グルメフェスティバル ～商店から見た西川口～

B級グルメ取材班@早稲田大学早田宰ゼミナール

1. はじめに
2. 「復刻！川口の麦味噌」（新井俊雄）
3. 顧客の満足度で勝負（川口清一）
4. 「自分のまちだから良くしたい」（小久保亮治）
5. 西川口に人々が立ち寄るように（茂田晃司）
6. 日本人も中国人も立ち寄る店に（鐘慧ケイ）
7. 「食」以外の付加価値を（孫曉紅）
8. みんなで楽しむイベントを（中野良子）
9. 「店を出すのは簡単。続けるのは難しい」（野澤英行・飛鳥）
10. 「ため池」に人の「流れ」を（森重利）
11. 「危機感がないと生きていけない」（山田慶忠）
12. 学生が選ぶ西口おすすめMAP



# はじめに

違法性風俗一斉取締りは西川口のまちに大きな影響を与え、閉店する飲食店や空き店舗が目立つようになった。しかし、西川口西口はそれ以前から緩やかに人口が減少していた。その傾向がここ2年で顕著になってきている。そんな状況を打開しようと、まちでは「アートなまち」や「B級グルメのまち」を目指す動きが出てきた。

そして10月28日、「食によるまちづくり」の一環として、今年もB級グルメフェスティバルが開催される。厳しい時代の中で、各商店が顧客と繋がり、自分の店の魅力で勝負し、まちを創っていく。過去、数万人の来場者が、各店舗が提供する自慢のグルメを楽しんできた。

しかし、「風俗のまちからの脱却」という地域イメージは浸透しきれていない。B級グルメ大会後のまちへのリピーターが増えていないのが現状だ。

そこで今回、私たち早稲田大学早田ゼミは、外部の学生として、B級グルメ開催に合わせて、商店主の立場や市民活動団体にフォーカスを当て、「食によるまちづくり」のあり方や市民同士の連携によるまちづくりを考えるきっかけを提示したいと思う。



## なぜ西川口でB級グルメフェスティバル？



2003年の違法性風俗一斉取締りは西川口のまちに大きな影響を与え、閉店する飲食店や空き店舗が目立つようになりました。そこで2007年、上田知事の「西川口駅西口を『関東の食い倒れのまち』にしたらどうか」という県議会の答弁をもとに、まちでは西川口バザールやB級グルメ大会が開かれるようになりました。西川口は「グルメのまち」として新たなスタートを切っているのです。

# 「復刻！川口の麦味噌」 新井俊雄（新井商店）

今年4月にオープンした新井商店は「地域の元気を発信するお店」をコンセプトに、魅力溢れる埼玉の美味しさをスタイリッシュユナ立ち飲みスタイルで提供している。

こだわりはバリエーション豊かな麦味噌メニューだ。今回B級グルメフェスティバルに出品する「麦みそ鶏煮込み」や、焼きおにぎりや冷奴、麦味噌アイスなど、麦味噌の可能性を日々追求している。「うちはおつて味噌問屋だったんですよ。経営者の新井俊雄さんは、先代から受け継いだ看板を指差し語る。「川口は荒川の立地を活かした鋳物文化が根づいているが、麦味噌も荒川の賜物で、江戸後期から昭和中期頃まで味噌醸造が盛んでした。現在も市内に味噌蔵が残り、当時の面影を残す。」

「麦味噌を地域ブランドとして復刻し、川口を盛り上げられないだろうか。新井さんは様々な人たちとともに活動を続け、今年9月に「川口麦MISO倶楽部」を立ち上げた。麦味噌料理教室を開催したり、市

内バーカーイーで「麦味噌ラスク」が発売されたりと、着実に裾野を広げる。今年のB級グルメフェスティバルでも麦味噌を使った「蕎麦香る志ぐれ丼」（二幸）や「麦味噌ジャージャーうどん」（山和田）といった麦味噌グルメが出品されている。いよいよ麦味噌が地域資源として熟成されてきた感がある。

（川口市西川口1-26-24, 048-258-3256）



営業日時

平日 15:00~24:00

土曜 13:00~24:00

日曜 13:00~23:00

火曜定休



経営者の新井俊雄さん



## なぜ西川口でB級グルメフェスティバル？



もともと緩やかに人口が減少していた西川口西口。空き店舗や閉店する店が目立っていました。そんな状況に対抗して、平成に入ってから、まちでは今後の方針を考えるようになりました。しかし、2003年の違法性風俗一斉取締りが、まちの減退に追い打ちをかけます。そこで、2007年、上田知事の「西川口駅西口を『関東の食い倒れのまち』にしたらどうか」という県議会の答弁をもとに、まちでは西川口パザールやB級グルメ大会が開かれるようになり、西川口は「グルメのまち」としてチャレンジすることになったのです。

# 顧客の満足度で勝負 川口清一 (G-collection)

川口駅から徒歩3分のところにあるダーツ&ダイニングバーG-collection、通称『ジーコレ』。ダーツに熱中し、お酒を飲まない人が増えたため、今年6月に改装し、ガールズバーとしての色彩を強め、新装開店をした。一方で、昼には親子連れが多く、ママ会が催されるようになった。リーズナブルな価格設定、洒落た店内の雰囲気、誘われ、親子連れなどの、新たな客層が出てきた。このような新しい客の声があきつかけでイベントが開催されるなど、昼はイベントスペースとしての顔をもっている。

昼と夜で異なる顔をもつジーコレのオーナー、川口清一さんはまちに対して厳しい印象を抱いているという。駅前にはチェーン店が進出し、個人商店には不利な状況だ。チェーン店に価格で争っても勝ち目はない。安易に単価を落とすよりも満足感をあげるべきだ、という。客が安さを第一に求める風潮を変えるのは店である。個人商店ならではの柔軟性を前面に出し、顧客の満足度



ご主人の川口清一さん

で勝負する。



(川口市本町4-5-1 Tプラザ207、048-446-7427)

営業日時

20:00~29:00

日曜 20:00~26:00

月曜定休

## 4コマ漫画～なぜ西川口でB級グルメフェスティバル？



# 「自分のまちだから良くしたい」 小久保亮治（そぼ処二幸）

西川口駅西口を出ると、古風なそば屋の看板が目に入る。B級グルメフェスティバルではすっかりおなじみとなったそぼ処二幸。その歴史も古く、昭和35年開業の老舗だ。モットーは「普通のを普通の値段で出す」と語るのは、店主の小久保亮治さん。先代から店を受け継いで以来、20年以上もメニューの値上げをしていない。

地元・西川口と共に歩んできた小久保さん。「自分の住んでいる街だから良くしたい」と、まちの活動にも積極的に関わる。西川口は治安の悪いイメージを持たれたが、長年過ごしてきた西川口を「悪いまち」と感じることは全くない、という。常に色々な人の目があるため、悪さを働く子どもは少ないのだそうだ。

「まちづくりはやっていて楽しいからやる。つまんなかったらやらない。」と語る小久保さんも、以前は「ただやっていただけ」という受動的な状態だった。しかし、活動を続けるうちに、「自分がまちづくりをしてい

るんだ」と能動的に考えるようになっていったという。若い世代によるまちづくりが、新たな西川口を築き上げている。

259  
川口市西川口1-5-4, 048-252-255



ご主人の小久保亮治さん



営業日時  
10:30~20:30  
日曜定休



◆作：岩井空見さん 川口市内NPO団体「川口絵本づくりクラブ」理事

## 西川口に人々が立ち寄るように

茂田晃司(酒場 山和田)<sup>さわでん</sup>

西川口駅を西口に降り、まっすぐ歩いたところに酒場山和田はある。串焼きの香ばしいにおいにつられ、帰宅途中の勤め人が入っていく。今回、酒場山和田がB級グルメフェスティバルに出品するメニューは、ジャージャーうどん。麦味噌を使った一品だ。

昔は風俗のイメージが強かった西川口。今ではベッドタウンへと様変わりしてきている。かつては客引きであふれていた通りも静かになった。その分、以前の活気がなくなってしまった。歩くと目につくのはシャッター通りや薄暗い路地。おのずと人は足早に帰る。店長の茂田晃司さんは、西川口がもつと活気に満ちるようになってほしいと願う。

B級グルメフェスティバルに参加する理由は、西川口を守り立てられれば、という思いがあるからだ。これまででは、赤羽などで飲んできて、西川口に着くとそのまま帰途につく人が多かった。B級グルメフェス



ご主人の茂田晃司さん

ティバルを機に、少しでも多くの人が西川口の店に立ち寄るようになると良い。茂田さんは「私たちはただ全力を尽くすのみです」と熱く語った。

(川口市西川口1-22-20、048-254-0303)



営業日時

16:00~24:00

## 川口商工会議所青年部①

西川口の商店の連合、それが商工会議所である。地域社会の健全な発展を図り、豊かで住みやすい郷土づくりに貢献している。その中でも若手経営者が集まるのが商工会議所青年部だ。青年部の役割は多岐にわたる。若手経営者の育成、勉強会の開催、イベントの開催などである。これらの活動を通して、西川口商店の活性化を図り、ひいてはまち全体の活性化に取り組んでいる。

青年部は、B級グルメフェスティバルに「ポテトマ・コロッケ」を出品する。このフェスティバルのために試行錯誤を重ねて商品開発を進めてきた。これを機に、「ポテトマ・コロッケ」が普及し、多くの人の目が西川口に向くようにする。これが大きな目標だ。

## 日本人も中国人も立ち寄る店に 鐘慧ケイ(中華料理 王府景)<sup>ツラチン</sup>。

多くの中華料理店が並ぶ西川口。王府景は、エキゾチックな内装による本場中国の雰囲気特徴だ。

開店当時から店に関わっているホールの鐘慧ケイさん。鐘さんが西川口に来たのは2004年。留学生として来日した。2010年の開店当初は、まだ中華料理を出す店は数える程しかなかった。それが、ここに、2年でアジア系の人々が増えるとともに、中華料理店の数も増えていった。

客層は中国人と日本人で半々。「日本人の客は静かで、中国人の客は声が大きい」と鐘さんは笑う。店の営業では、都心部との違いを感じることもある。特に東京と比べて厳しいと感じるのは、会社の数が少ないことだという。多くの会社員が寄ってくる東京の飲食店に比べ、ここ西川口では昼間の客が少ない。そのため、格安のランチメニューで勝負するなど試行錯誤を重ねる。今回のB級グルメフェスティバルでは北京水餃子を出品する。B級グルメフェステ



鐘慧ケイさん

イバルを機に、人々の目が西川口に向けて良いと感じている鐘さん。「もつと日本人のお客さんに来てほしい」と、店もまちもたくさんの人で溢れることを願っている。  
(川口市西川口1-24-10、048-229-4226)



営業日時

11:00~15:00

17:00~28:00

## 川口商工会議所青年部②



「ポテトマ・コロッケ」の考案者

劔持勝さん(リプロ西川口・ジェネラルマネージャー)

「30年ほど前の川口市は、地方から出てきて都内の学校に通う者のアパート街でした。その頃、川口の肉屋のコロッケがとて美味しかったことが記憶に残っています。郷愁のコロッケに一工夫加えたものがポテトマ・コロッケです」

# 「食」以外の付加価値を 孫曉紅(長安)ひかいち私家菜

西川口に本店を構える中華料理店の長安

ひかいち。店長の孫曉紅さんによる丁寧な接客が印象的なお店だ。日本に来て10年近くになる孫さんは、西川口をどのように見ているのか。

もともとは中国でホテルの仕事をしていたという。もともと成長したいと思い、2003年に来日した。当初は日本の全てが新鮮で、西川口には「良いまち」という印象を持ったという。夜でも大勢の人でにぎわっていた西川口。だが、今の西川口界限の人の少なさに、孫さんは「寂しくなった」と話す。

B級グルメをはじめ、西川口では「食」によるまちづくり活動が進む。孫さん自身も「B級グルメフェスティバルは継続してほしい」と食のイベントに前向きな一方で、「食事だけでは厳しい」と言う。食事だけでなく例えば温泉やデパート、遊ぶ場所があつてはじめて外からの客が来てくれると考えるからだ。

ならば外国人の目線で考える西川口の

強みとは、何か。孫さんは地域資源としての「铸件文化」と答えた。铸件文化をもつと西川口のPRに活かせないか、と言う。

西川口は外国人居住者の多い地域である。日本人だけの視点ではなく、幅広い視点で西川口を見ることで、新たなまちの可能性が見えてくるかもしれない。

(川口市中青木1-33-15、048-257-5645)



営業日時

11:00~14:00

17:00~29:00



ご主人の孫曉紅さん(右)

## ステージ紹介～ハーラウ フラ ナネア～



ハワイ大学時代からフラダンスを始めた相澤王子さんが、9年前に川口市内でオープンしたフラダンススクール。地域の方々を中心に、下は8才から、上は80才以上の方まで、幅広くレッスンにきている。地元川口のイベントにも以前から積極的に参加。今回は「カイマナヒラ」をはじめ、「アロハ ウィークフラ」「キブカイ」といったフラダンスの名曲を、子供のレッスン生も参加して披露します。

# みんなで楽しむイベントを 中野良子(さんたろん)

川口駅の商店街に店を構えるお好み焼き屋、さんたろん。B級グルメメフェスティバル初参加となる今回は、もっちりとした生地を巻いたシンプルな逸品、「さんたろール」を出品する。

川口駅は、デパートや駅を利用する人で華やかな雰囲気を感じている。商店街も活気に満ちている様子だ。しかし、「JR川口駅周辺はチェーン店ばかりだね」と店長の中野良子さんは言う。川口は再開発によりマンションが建ち並び、住民の数は増加した。一方で、昔ながらの個人商店の存在が薄くなっている。商店街の中を歩いて買い物をする人をいかに増やすかにも苦労している。

一方、かつての西川口の中野さんはこう振り返る。「夜、遊びに行くところ。飲み屋が多い」。夜中にも関わらず薬局の店内は明るく、行き交うタクシーも相当な数であった。川口と比べてもネオンは明るいと感じ、大きな衝撃を受けたそうだ。



店長の中野良子さん

今回B級グルメメフェスティバルに参加した理由を、中野さんはこう話す。「みんなでワイワイ楽しみたいから」。地域の人と地元商店が楽しみながら交流できるイベントは、まちが活性化する一つのきっかけになるかもしれない。

(川口市栄町3・10・13、048・259・0569)



## 営業日時

月～水 17:00～24:00

金土 17:00～25:00

日祝 11:30～24:00

## ステージ紹介～仲町中学校吹奏楽部～



仲町中学校は地域に根付いた活動を様々な形で取り組んでいます。過去、B級グルメ大会や飯仲小まつり、仲町中まつりといった様々な地域イベントにおいて日頃の練習成果を見せています。今回は「ワイルドアットハート」、「Rising Sun」、「つけまつける」、「じょいふる」の曲目を演奏します。鈴木先生の指揮のもと、総勢35名の部員が奏でるメロディーをお楽しみください。また、11月10日には川口総合文化センター・リリアのメインホールにて川口地区合同演奏会が行われます、是非お誘いの上ご来場ください。

「店を出すのは簡単。続けるのは難しい」

野澤英行・飛鳥（蕎麦の澤）

2009年度、わらびもちでB級グルメ大会優勝を手にした蕎麦の澤。3大会連続で入賞を果たしている。もちろん本業はそば屋だ。東京の名店（新橋・本陣房、白金台・利庵）で腕を磨いたご主人が、自慢のそばを打っている。

2010年2月、ご主人の野澤英行さんは、病気のため店内で倒れた。済生会病院に入院し、3か月間店を休んだ。それ以後、健康管理のため、昼の営業を終えた後に駅までの道を歩いている。まちで見かけるのは、空き店舗や新しくできた店の数々だという。次々と開店しては、潰れていく店。「店を出すのは簡単だが、続けるのは難しい」と、厳しい目でまちを見つめる。西川口ではチャレンジ店舗の募集もしたが、長く地域に根ざす人気店ができない限り、地域の活性化には結びつかないという。

野澤さんには奥さまと2人のお子さんがいる。奥さまの飛鳥さんは子どもを連れて出かけることが多いため、危険には敏感だ。



営業日時

11:30~15:00

17:00~21:00

月曜定休

西川口は「歩道が狭い」と話す。マンションが建ち、道を歩く人が増えたように感じるが、道の整備など、環境整備は追いついていないのではないかと分析する。

まちの活性化のためには、たくさんの人を呼び込む工夫が必要である。しかし何よりも、子どもやお年寄りが住みやすい、安全な環境づくりも忘れてはいけないのかもしれない。

(川口市西川口6・8・5、048・251・1566)



ご主人の野澤英行さん

ステージ紹介～ドージャバーズ～



西川口東口にある一風変わったライブバー「cafe 如何屋（どうや）」のマスターであるもじゃもじゃさんが中心となり結成。昭和歌謡やPOPS・オールディーズの名曲をカバーし、市内、県内のお祭りやイベント、病院でのボランティア活動を通じて幅広い世代に「音楽の楽しさ」を送り続けているバンドです。ステージ・パフォーマンスは、歌もトークも見所が盛りだくさん。今フェスティバルではサプライズもご用意しております。乞うご期待！

# 「ため池」に人の「流れ」を 森重利(ギユゼル)

ギユゼルはリーズナブルな値段でボリューム満点の料理を届けるトルコ料理店だ。週末にはイベント会場や埼玉スタジアムでの販売も行っている。

今回B級グルメフェスティバルに出品するメニューは「川口キューポラあつい焼きそば」。主人の森重利さんが、2年の歳月をかけて完成させた力作だ。川口といえばキューポラ。そこから連想して、鉄の溶ける様子を表現した熱々のあんが、焼きそばにかけられていた。この力作が誕生したきっかけは、川口の衰退を感じ、まちの名物を創ることで話題性を作ろうという発想である。これから先を思うと、「今のうちに外から人を呼ばないと、どんどん衰退する」と、川口の先を見据えて警鐘を鳴らす。

B級グルメフェスティバルの開催地である西川口も、それだけではテーマの絞り込みが弱いという。川口市全体もそうだが、「何か1つのテーマを持ってやらない」と語る。多くの外国人が住んでいるまちの

現状を活かし、中国街を作ることや、世界各国の店を集めて話題性を作ることとはどうか、と提案する。

「行動しないとダメ」と繰り返す森さん。川口を盛り上げようと、月に一度、キューポラ市場で川口キューポラあつい焼きそばを販売している。外から訪れる人が少なくなってきたことから、最近の西川口を「ため池」と表現する。川口に、「食」によって人の「流れ」をもたらす活動が続いている。

(川口中青木1-10-20、048-251-4628)



営業日時  
平日 12:00~15:00



ご主人の森重利さん(右)

## まちづくりニューフェイス～ワンポイント健康レッスン～

こんにちは、今日はB級グルメフェスティバルですね！ここでは、当日の空いた時間にできる、ちょっとしたワンポイント健康レッスンを紹介します！

### ◆後藤ロレンスさん



アンチエイジングとダイエットを専門として都内や埼玉県を中心にレッスン活動している傍ら、ミラクルボディ・ロロゴ合同会社を経営して、高齢者のエクササイズレッスンや、スポーツ系・キッズ系のイベント企画や助産院や保育所などでも活動をしたり、イラスト系デザイン制作なども手がけています。その他消防団員として地域の安全に貢献したり、数多くの市民活動を行い、子育て支援や自然保全活動など幅広く活動しております。

# 「危機感がないと生きていけない」

## 山田慶忠(異味香)

イライシキ

西川口の駅近くにはたずむ本格中華料理店、それが異味香だ。パリパリの皮と香ばしい風味が食欲をそそる焼焼売で、2010年度B級グルメ大会チャンピオンに輝いた。

ご主人の山田慶忠さんが西川口に越してきたのは6歳の時。以来40年近く西川口の移り変わりを肌で感じてきた。パブルの頃は、接待など大人数でやってきて、大皿の料理を注文する客でにぎわった。しかし今はグループ利用が少なくなり、個人個人の客が頼むのは、どうしても単品のみ注文となってしまう。「危機感がないと生きていけないですね」と、山田さん。客のニーズに柔軟に対応しようと、今年から小皿の500円メニューを出すことに決めた。

昨年3月に地元の飲食店と連携して「焼焼売の会」を立ち上げた。参加する店舗毎にパリエーション豊かな焼焼売を提供し、協力店でPRし合い、「食」で西川口に人を呼びこむのが狙いだ。いつも新しい壁にチ

ヤレンジしている。「今は過渡期」と、西川口の明るい未来に向け日々汗を流している。  
(川口市西川口1-26-24, 048-258-3256)



異味香

営業日時  
火～木 17:00～25:00

金・土 17:00～24:00

日・祝 17:00～24:00、月定休



ご主人の山田慶忠さん



## まちづくりニューフェイス～ワンポイント健康レッスン～

### 疲れてベンチなどに座った時・・・

「体をちょっと後ろに倒して両膝をくっつけた状態で地面から10cm持ち上げてみましょう。時間は10秒。この時「あー」と声を出しながらやってみてください。この運動は特に腹筋に効きます。アンチエイジングなどにも効果的。回数を増やすことによってダイエットにも繋がります」



### CASK AND STILL

本格的なスモークコテイションバー。店内の幽玄な雰囲気と時間の経過を忘れてしまう。西川口の写真展や、大学生とコラボしたチョコレートアート(メニューボード)教室といった地域交流イベントを積極的に開催。



### 蕎麦の湯



### 猫の家

たくさんさんの猫にふれあえる西川口“癒しのスポット”。オーナーの小林さんは長年物産で、野良猫の避妊去勢や車籠仲介といった地域猫活動をおこなっている。人なつっこい猫が多く、まったりとした時間を過ごせます。



### 虹カフェ

今春にオープンしたコミュニティカフェ。週末には地域の方によるフラワーアレンジメント教室やギターライブ、フラダンスショーなどが開催されており、アートなまちづくりを展開している。



# 西口おすすめMAP

編集部が独自の目線で選んだ西川口駅西口周辺のおすすめスポットを紹介します！



### ひだまりカフェ

西川口公民館の隣にあるコミュニティサロン。プチアリアマーケットや手作りジャムの販売、また、就学支援を目的としたラオスやカンボジア雑貨の販売をしている。市民が集う駄草喫茶のほか、「安心お届け隊」という地域の住民を支える取り組みも行っている。



# 2012 B級グルメフェスティバル

## ～商店から見た西川口～

### 編集後記

この冊子を作るにあたって、今まで以上に西川口に関わらせていただきました。その間、まちの様々な面を見ることができました。そして、まちの様々な人と接することができました。風俗のイメージが強い西川口でしたが、こんなにも多くの方がまちのことを想って動いているのだなと驚きました。また、未熟で社会経験にも乏しい私たちミニコミ班の学生に対して、とても親切にしてくださった地域の方々の温かさが印象に残っています。ありがとうございました。

(B級グルメ取材班代表：竹端集)

B級グルメフェスティバル～商店から見た西川口～

企画・編集：早稲田大学早田ゼミ2012年度ミニコミ班（大野有紗、岡美冬、萱野雄太、菊地昌吾、柴田耕羊、竹端集、橋本聡、アドバイザー・鏑木亜紗実、特別協力・千葉俊介）

発行年月日：2012年10月25日

発行元：早稲田大学早田幸ゼミナール

新宿区西早稲田 1-6-1

〒169-0051 03(5286)1907